

事業計画書

1. 団体名	梅の計画
2. 事業名	旧本梅小学校跡地利活用プロジェクト
3. 本支援金活用回数	☒ 1回目 ☐ 2回目 ☐ 3回目
他補助金との併用	☒ 併用なし ※初回は10/10交付・2回目以降は3/4交付 ☐ 併用あり（補助金名： ）※申請中含む
4. 対象	対象となる地域や地域住民を記入してください。
育親学園校区（本梅町、東本梅町、宮前町、畑野町）、亀岡市内全域	
5. 期間	実施期間を記入してください。 ※対象期間は最大で令和8年4月1日～令和9年3月31日までです。
令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
6. 地域課題・事業目的	地域課題と事業の目的を記入してください。
地域課題（どのような地域課題があり、誰がどのように困っているのか）	
課題（現状とそれにより誰がどのように困っているのか） 1）子供をもつお母さんたちの悩み：「旧本梅小学校跡地をどうするのか？」本梅町民で話あったところ色々な意見があったが、会議の場で意見を言いづらいお母さん方の本音は『子供たちが気軽に利用できて遊べる場所を維持して欲しい』、『塾や習い事など近くにないから自習ができる部屋や、習い事教室があったりして欲しい』、小さな赤ちゃんがいるお母さんは『みんなで育児ができる場所が欲しい』等であった。つまり、お母さん方の悩みは子育て環境に不満があるということである。 2）旧本梅小学校の維持費：子供たちの遊び場にして欲しいと言っても現実問題、本梅町自治会も維持するだけでも予算が必要となり現在の町民からの会費だけでは困難であると決断されている。旧本梅小学校が収入を生み出していない状況が課題である。 3）本梅町の魅力が埋もれている：上記で説明した収入課題を解決できる魅力が埋もれていること。それが3つ目の課題である。町民は地元の歴史的価値や半国山を代表とする山々の価値に気が付いているものの、手が出せない状態となっている。個々で頑張っている町民はおられるが、個の力では埋もれたものを引き出すには限界がある。今こそコミュニケーションをとって本梅町みんなで頑張る時である。	
事業目的（上記の地域課題をどのような解決結果に導きたいのか）	
地域住民が集える場所として地域の住民の力で旧本梅小学校を利活用し、イベントを通して本梅町外から人を集客し収入を得、継続して利活用できる事業に育てあげる結果に導きたい。	

7. 事業内容	上記の課題を解決するためになにを実施するのか具体的に記入してください。	
事業の実施概要		
1) 梅の計画の事業は、規約にもあるように本梅町を盛り上げていくことであるが、裏を返せば、お母さん方の子育て不満を解消することが、盛り上げていく中で重要な要素と考えている。そのお母さん方の子育て不満を解消するための中心となる場所が旧本梅小学校であり、その学校を収益源となるよう活用していく。ただし初年度は、旧本梅小学校が教育財産として部活動等で利用されている現状を踏まえ、収益目的の事業ではなく将来的に収益を生む事業（収益モデル）を検証する場としてイベント（きもだめしや本梅こども文化まつり）を行い探ることとする。 2) きもだめしと数掛山城のコラボ：本梅町で埋もれている魅力の一つに数掛山城址がある。この歴史的財産をまず、里山保全活動のほんめ里山ガーディアンズと連携し、登山が可能な状態を作る。すでに3月に登山と歴史的説明の案内板の設置は行っており、完全ではないが登山できる状態となっている。次に、この歴史的財産を地元の風土記として紙芝居を作る。それを地元の読み聞かせ団体と連携し地元の子供たちに地元の歴史を知ってもらう活動を行っていく。その内容が関連した、きもだめしをイベントとして旧本梅小学校で開催する。2年目以降は御城印の試験的販売や掛山城の城主、波多野秀親公を、ゆるキャラ化し明智光秀、石田梅岩に次ぐマスコットキャラクターとして育成しグッズ販売を実現させたい。 3) 没入体験型 play museum へ：昨年度より、既存の本梅町民文化祭と連動して「本梅こども文化まつり」を旧本梅小学校で開催している。旧本梅小学校を会場とすることで、元々通っていた子供たちやお母さんお父さん方も足を運んでくれた。参加が少なかった子育て世代をターゲットとし、ワークショップや体育館解放、スタンプラリー等実施した。今年度は、地元の作家さんに参加してもらい子供たちが体験できる文化際を実現していく。まずは3年間実施して行く中で内容の充実化を図りたい。またこれらを亀岡市全域に対象を広げ有償で楽しめるイベントとして実現可能か探りたい。		
●スケジュール（会議、準備、イベント、検証などをいつ行うか計画を記入してください。）		
日程	内容（活動内容・参加費・場所など具体的に記入）	場所・会場
令和8年		
3月28日	数掛け山城案内板設置（本梅里山ガーディアンズ）	数掛山
4月11日	梅会議	ふれあいセンター
4月12日	数掛山城並びに本梅町近隣の郷土史勉強会（講師：小早川さん）	ふれあいセンター
4月26日	梅会議	ふれあいセンター
5月上旬	梅会議	ふれあいセンター
5月15日	きもだめし制作開始	旧本梅小学校
	告知1回目（本梅町回覧板、梅の計画インスタ告知）	
6月15日	告知2回目（本梅町回覧板、LINE 告知、インスタ告知）	
	チラシ発注開始	
7月15日	告知3回目（本梅町回覧板、LINE 告知、インスタ告知、ポスター設置 チラシ配布、亀岡市公式LINE 告知等）	
7月31日	きもだめしプレ開催	旧本梅小学校
8月1日	きもだめし本番1日目	旧本梅小学校
8月2日	きもだめし本番2日目	旧本梅小学校

8月8日	きもだめし予備日	旧本梅小学校
8月9日	きもだめし予備日	旧本梅小学校
9月15日	梅会議	旧本梅小学校
	告知1回目（本梅町回覧板、インスタ告知）	
10月15日	告知2回目（本梅町回覧板、LINE告知、インスタ告知） チラシ配布、ポスター掲載、亀岡市公式LINE告知等）	
10月31日	ほんめ子供まつり1日目	旧本梅小学校
11月1日	ほんめ子供まつり2日目	旧本梅小学校
11月3日	かたづけ	旧本梅小学校
11月8日	梅会議	ふれあいセンター
11月21日	数掛山城登山イベント（熊の状況判断による）	旧本梅小学校
12月3日	報告会	市役所

●情報発信方法		
発信媒体（チラシ、SNSなど）	発信量	広報範囲（配布範囲、掲示場所等）
LINE告知 亀岡市LINE公式（文化芸術課） インスタ告知 A4チラシ A3ポスター	イベント毎に3回 イベント毎に1回 適宜 イベント毎に300枚 イベント毎に12枚	育親学園エリア、亀岡市内 亀岡市内 フォロワー 育親学園エリア、亀岡市内 育親学園エリア、亀岡市内

8.目標	事業実施に当たって下記の目標を具体的に記入してください。
① 事業による変化・成果目標	
梅の計画スタッフを3名増やす。（イラスト編集、音響、デジタル系） イベントに関わるボランティア数を増やす。きもだめし30名、本梅こども文化まつり30名。 そのうち、中学生、高校生、大学生の参加者数目標10名。 梅の計画インスタグラムフォロワー数31名→100名 旧本梅小学校を活用し事業を立ち上げる地元住民を育てる。 本梅こども文化まつりに興味を持ってもらい、自分も作品を展示したいと思う人を増やす。10名。	
② 上記①を達成するための実施目標数値（事業の回数や参加者数など）	
きもだめし、本梅こども文化まつりイベント2回 参加者数目標は各300名。 登山イベント1回 参加者50名	

9.連携・協力	他の団体や行政機関などとの連携・協力について、連携・協力先の名称と具体的な連携・協力内容を記入してください。 ※記入にあたっては、連携・協力先との十分な事前協議を行ってください。
本梅町自治会、本梅町こども会育成会、本梅里山ガーディアンズ、ぼちぼちさん、はぐぐみさん、育親学園、亀岡市教育委員会、亀岡市市民力推進課、亀岡市民活動推進センター、亀岡市文化芸術課	

10. ステップアップの内容		※活動2年目以降の団体は以下の内容を具体的に記入してください。
① これまでの事業実施時の課題と成果		
② 今回申請の事業はこれまでの事業と比べどう活動の充実をさせているのか		
11. 次年度以降の展開	本支援金による支援終了後の事業展開について、資金の獲得や事業の継続展開をどのように行われる予定なのか、方法を具体的に記入してください。	
	実施内容	資金獲得方法（助成金・寄付金）
2年目	きもだめし、本梅こども文化まつりの継続と充実。数掛山登山イベントによる登山客の集客。御城印など対応するスペースを学校敷地内に創設。ゆるきゃらの創設（ひでちか君。）	事業収入、寄付金、助成金、会費等
3年目	きもだめし、本梅こども文化まつりの発展と共にクラフト市開催、飲食もできるイベントに発展させたい。集客目標600人へ。数掛山登山イベントの継続と、ひでちか祭りの創設。	事業収入、寄付金、助成金、会費等
12. 審査会	審査会の発表順番は何番を希望しますか。いずれかに○をつけてください。申請書の提出が早い団体の希望を優先して順番を決めます。	
一番最初	○	
前半		
後半		
一番最後		
13. 申請額に対して減額で交付決定となった場合も申請事業を実施しますか。		
「はい」もしくは「いいえ」にレ点を入れてください。		
☒ はい ☐ いいえ		

※内容が本様式に入りきらない場合は適宜追加し、事業内容が分かる参考資料があれば添付してください。